

# 榛原町内遺跡発掘調査概要報告書 2003年度

榛原町文化財調査概要 28

2005

榛原町教育委員会

榛原町内遺跡発掘調査概要報告書 2003年度

榛原町文化財調査概要 28

2005

榛原町教育委員会

## 例　　言

- 1 本書は、平成15年度（2003年度）に榛原町教育委員会が国庫補助事業・県費補助事業として実施した「榛原町内遺跡」の発掘調査概要報告書（榛原町文化財調査概要 28）である。
- 2 発掘調査は、平成15年度（2003年）4月16日に着手し、平成16年（2004）3月31日に終了した。なお、本書の刊行は、平成16年（2004年）度事業として実施したものである。
- 3 現地調査は、奈良県教育委員会及び奈良県立橿原考古学研究所の指導のもと、榛原町教育委員会生涯学習課主任 柳澤一宏が担当した。
- 4 調査組織及び関係者は、「I 埋蔵文化財発掘調査の概要」に掲載している。
- 5 測量図及び遺構図の方位は、国土座標第VI系を基準とする座標北を用いているが、一部には磁北（M. N.）も使用している。なお、平成14年4月1日施行の測量法改正により、測量の基準が日本測地系から世界測地系になっているが、本書では、これまでの遺跡測量成果等の都合上、日本測地系によっている。
- 6 土層の色調は、『新版標準土色帖』2000年版（農林水産省農林水産技術会議事務局監修 （財）色彩研究所色票監修）を参考にしている。
- 7 各遺跡の調査記録、出土遺物等は、榛原町教育委員会において保管している。
- 8 本書の執筆・編集は柳澤が行い、一部を横澤 慎が補佐した。

## 目 次

I	埋蔵文化財発掘調査の概要	1
1	埋蔵文化財発掘調査等の概要	
2	調査組織等	
II	位置と環境	5
1	地理的環境	
2	歴史的環境	
III	安田西遺跡第2次発掘調査概要	7
1	調査の契機と経過	
2	位置と環境	
3	遺跡の調査	
4	まとめ	
5	抄録	
IV	仮称 福西城跡間違遺跡第1次発掘調査概要	10
1	調査の契機と経過	
2	位置と環境	
3	遺跡の調査	
4	まとめ	
5	抄録	
V	下城・馬場遺跡第9次発掘調査概要	19
1	調査の契機と経過	
2	位置と環境	
3	遺跡の調査	
4	まとめ	
5	抄録	
VI	沢遺跡第10次発掘調査概要	24
1	調査の契機と経過	
2	位置と環境	
3	遺跡の調査	
4	まとめ	
5	抄録	

# I 埋蔵文化財発掘調査の概要

## 1 埋蔵文化財発掘調査等の概要

様原町では、1968年（昭和43年）以降、土木工事等の開発行為に伴い、生活環境をはじめ、地理的環境・歴史的環境も大きく変化してきている。土木工事等の開発行為の増加とともに埋蔵文化財の発掘調査も町内各所で行われ、周辺の山野とともに大きく景観を変え、その姿を消している。

このような状況のもと、様原町教育委員会では、1986年に町内遺跡の遺跡詳細分布調査を実施し、いわゆる「遺跡分布地図」の整備をはかり、「様原町遺跡分布調査概報」を刊行した。その後、新たな調査成果等をもとに、1993年には『様原町遺跡分布地図』を刊行し、「遺跡分布地図」の改訂、2000年度には「遺跡分布地図」の改訂並びにデータのデジタル化を行い、埋蔵文化財の保存・活用をはかっていく基礎資料としている。

毎年、町内各所で開発行為が計画・実施されており、埋蔵文化財の取り扱い等については、「遺跡分布地図」をもとに事業者等ととの都度、協議を重ねているところである。

2003年度（平成15年度）に様原町教育委員会が取り扱った遺跡有無確認踏査願、埋蔵文化財発掘届・通知、発掘調査等の件数は表1のとおりである。また、2003年度（平成15年度）に実施した発掘調査・工事立会は表2・図1のとおりである。なお、本書には、国庫補助事業・県費補助事業として実施した安田西遺跡（2次調査）、仮称福西城関連遺跡（1次調査）、下城・馬場遺跡（9次調査）、沢遺跡（10次調査）の調査概要を収録している。なお、下城・馬場遺跡、沢遺跡については、調査成果整理が途上にあるため、一部を登載しているにすぎない。

表1 2003年度（平成15年度）発掘届・発掘調査件数等一覧表

遺跡有無確認 踏査願	埋蔵文化財 発掘届（民間）	埋蔵文化財 発掘通知（公共）	埋蔵文化財 発掘届・通知合計	発掘調査 (町担当)	工事立会 (町担当)	調査件数 (町担当)	調査件数 合計
2	3	0	3	5	1	0	6

種別 摘要	遺跡名	所在地	調査原因	事業主体	工事面積(m <sup>2</sup> )	措置等
埋蔵文化財 発掘届（民間）	安田西遺跡	安田80-2	個人住宅建設工事	桐野登志明外2名	322.93	2003年度 町工事立会
	沢遺跡	沢974-1、976-1	個人住宅建設工事	坂口安夫	114.00	2003年度 町工事立会
	篠楽アサマ遺跡	篠楽元篠野38-1	個人住宅建設工事	池田幸子	326.32	2003年度 町工事立会
遺跡有無確認 踏査願		下井足648-1外	近隣公園設備工事	様原町(公園課)	20,000	明確な遺構・遺物 なし、工事実施
	長峯柿本遺跡隣接地	長峯268外	特別擁護老人 ホーム増築工事	社会福祉法人 豊生会	326.32	明確な遺構・遺物 なし、工事実施

表2 2003(平成15)年度発掘調査等一覧表

番号	調査場所 ・ 告白係地図番号	遺跡名	調査地	現地調査期間	調査原因 (調査者)	工事面積 (面積)	調査面積 (面積)	調査・発掘		遺物	遺物概要	備考
								遺	土壁			
1	発掘調査 ・ 15-D-90	下駄馬場遺跡 (9次調査)	梅原町沢	2003.5.6 ~ 2003.9.30 ~ 2003.12.15 ~	個人の農地改 工事 (築堤裏)	1.117	1.10	堆、土壁、 砂場土	サスカイト、褐色土器、須恵器、 土師器、瓦器、瓦質土器、陶器、 磁器、青磁、白磁、灰陶、铁刀、 铁釘、铁斧、铁鎌、瓦、 壁土、灰化物他	サスカイト、褐色土器、須 恵器、土器、瓦器、 土師器、瓦器、 鐵器、鐵釘、 鐵斧、鐵鎌、瓦、 壁土、灰化物他	編文時代～古墳時代・ 中世の遺物散布地	本管所収
2	発掘調査 ・ 15-D-84	茅道跡 (10次調査)	梅原町沢	2003.6.12 ~ 2003.10.16 (坂口安夫)	個人の耕作地 改工事 (耕作)	1.14	1.14	堆、ビット、 溝	サスカイト、石器、 鐵器、鐵釘、 鐵斧、鐵鎌、瓦器、 土器、瓦器他	サスカイト、石器、鐵 器、鐵釘、鐵斧、 鐵鎌、瓦器、土器、 土師器、瓦器他	中世の居館跡	本管所収
3	発掘調査 ・ 15-B-3324	定期面透跡 (2次調査)	梅原町安田	2003.6.26	個人住宅建設 工事 (梅野豊志明他)	222.93	1	なし	なし	なし	中世の遺物散布地	本管所収
4	発掘調査 ・ 15-B-500	福西面透跡 (復旧) (10次調査)	梅原町福西	2003.8.20 ~ 2003.10.20 (久我清司)	個人の農地改 工事 (久我清司)	4.132	4.4	平坦面、堀切、 土壁	サスカイト、石器、 瓦器、瓦質土器、陶器、鐵器、 鐵釘、鐵斧、鐵鎌、五輪塔 (火輪塔)等	サスカイト、石器、 瓦器、瓦質土器、陶器、鐵器、 鐵釘、鐵斧、鐵鎌、五輪塔 (火輪塔)等	中世の城跡	本管所収
5	立会調査 ・ 15-D-79	溝跡 (2次調査)	梅原町大見	2004.3.10 ~ 2004.3.31 (梅原町)	個人の農地改 工事 (梅原町)	~	105	平坦面、堀切、 土壁	土器器、瓦器、 土師器、瓦質土器品、 陶器、鐵器、鐵釘、 鐵斧、鐵鎌、五輪塔 (火輪塔)等	土器器、瓦器、 土師器、瓦質土器品、 陶器、鐵器、鐵釘、 鐵斧、鐵鎌、五輪塔 (火輪塔)等	中世の城跡	次年度調査 候
6	立会調査 ・ 15-B-366	櫛ヶサマ遺跡	梅原町櫛ヶ 元郷野38-1	2003.7.22	個人住宅建設 工事 (池田幸男)	326.32	なし	なし	なし	なし	中世の遺物散布地	1995年調査地



## 2 調査組織等

2003年度の現地調査及び2004年度の整理作業等の関係者は、次のとおりである（敬称略）。

総括 教育長 田村義治

庶務 事務局長 米田 実（2003年度）、小西千恵（2004年度）

### 生涯学習課

課長 石本淳應（2003年度）、中村好三（2004年度、次長 生涯学習課長事務取扱）

課長補佐 打越明美（2003年度）、中西一昭、合田憲二

主事 杉本昌之、木戸千秋

調査 主任 柳澤一宏

### 下城・馬場遺跡（9次調査）

補助員 井上好美、横澤慈、上西高登、山岡政郁、笠井健嗣、鷹野義朗、峯健太郎、竹政俊和、川田晶一、打越真弓

作業員 岡野イエ、樋原栄子、砥出登美子、大門静、古川マサエ

指導・助言 奈良県教育委員会、奈良県立橿原考古学研究所、辻本宗久

協力 砥出嘉信、沢自治会、㈱ワールド、IDA

### 沢遺跡（10次調査）

補助員 井上好美、横澤慈、山岡政郁、笠井健嗣、鷹野義朗、峯健太郎、竹政俊和、川田晶一

作業員 岡野イエ、樋原栄子、砥出登美子、大門静、古川マサエ

指導・助言 奈良県教育委員会、奈良県立橿原考古学研究所

遺物写真撮影 佐藤右文

協力 板口安夫、菊田喜佐雄、㈱ワールド

### 安田西遺跡（2次調査）

補助員 笠井健嗣、鷹野義朗、峯健太郎、竹政俊和

指導・助言 奈良県教育委員会、奈良県立橿原考古学研究所

協力 桐野登志明

### 福西城跡関連遺跡（仮称・1次調査）

補助員 井上好美、横澤慈、笠井健嗣、鷹野義朗、峯健太郎、竹政俊和

作業員 樋原栄子、大門静、古川マサエ

指導・助言 奈良県教育委員会、奈良県立橿原考古学研究所

遺物写真撮影 佐藤右文

協力 久我清司、大門健夫、古川信雄、㈱ワールド

## II 位 置 与 环 境

## 1 地理的環境

奈良盆地の東方の山間部に宇陀と呼ばれている地域が広がっており（図2）、現在の行政区画では大宇陀町、橿原町、菟田野町、室生村、曾爾村、御杖村からなっている。この宇陀地方は地理的な状況から西半と東半に大別でき、一般に前者が「口宇陀」、後者が「奥宇陀」とも総称されている。口宇陀は標高300～400mの丘陵とこの間を縫って流れる中小河川が複雑に入り乱れ、これらが幾つもの小盆地や浅い谷地形を形成しており、口宇陀盆地とも呼ばれ、大宇陀町、橿原町、菟田野町の大半がここに含まれている。これに対し、東部の奥宇陀は室生山地、高見山系などの険しい山々が連なっており、奥宇陀山地とも呼称されている。口宇陀地域の主要河川は、西に宇陀川、東に芳野川があり、幾つもの小河川を合わせながら橿原町萩原で宇陀川本流となる。橿原町を後にした宇陀川は三重県で名張川となり、木津川、淀川を経て遠く大阪湾へと至り、大和川流域とは水系を異にしている。

榛原町の四周は概ね標高約400~800mの山塊に囲まれ、東は高城岳、三郎岳、室生村へと通じる石割峠があり、北は大和高原とを区切る額井岳、香醉山、鳥見山などの山々が屏風状に連なり、宇陀の地を見下ろしている。西は桜井市や大字宇陀町、南は菟田野町となっており、丘陵接線をもってそれぞれの境界としている。地形的にみれば榛原町の西半は口宇陀的、東半は奥宇陀的な様相を呈している(図1)。



図2 榛原町位置図

## 2 歷史的環境

宇陀地方は、「古事記」、「日本書紀」をはじめとする多くの文献に度々登場し、これらの内容等からこの地は軍事・交通の要衝であったことを窺い知ることができ、今に残る地名や伝承なども多い。また、櫻原町を流れる宇陀川・芳野川・内牧川流域の各所には多くの遺跡が分布しており、発掘調査・分布調査を重ねるたびにその数も増加している。

これまでに、宇陀郡内では4点の有尖頭器が出土しており、うち、3点が町内から出土していることが明らかとなっている。これらは、縄文時代草創期～早期に求めることができ、この頃が宇陀地域の歴史の初源であろう。

縄文時代の遺跡の多くは、先述の河川流域の河岸段丘上、尾根上、谷部等に認められる。これらの遺跡の多くは、採集遺物によっているため、その実態が必ずしも明らかとはいえない。また、発掘調査によって確認された場合でも、数点の遺物が出土しているのみで遺跡の全容が明らかになったものは少ない。このような状況のもと高井遺跡や坊ノ浦遺跡では、早期から後期にわたる集落跡であることが発掘

調査によって明らかとなっている。

弥生時代前期から中期の遺跡は、沢遺跡、下城・馬場遺跡、大貝ヒジキ山遺跡、上井足北出遺跡をはじめとする数遺跡が知られているにすぎないが、後期の遺跡は比較的多く認められる。これらは、地理的制約のためか奈良盆地で見られるような大規模な集落ではないが、次代の古墳時代へと継続するものが多い。

弥生時代後期から古墳時代前期の墳墓である台状墓は、これまでに野山遺跡群、能峰遺跡群、下井足遺跡群、大王山遺跡群、キトラ遺跡などで確認されている。弥生時代後期の集落としては、高塚遺跡、能峰中島遺跡、上井足北出遺跡、古墳時代の集落としては、先の遺跡の他、戸石・辰巳前遺跡、高田垣内遺跡、谷遺跡、石榴垣内遺跡、坊ノ浦遺跡などを挙げることができ、谷部を流れる川跡や堅穴住居跡などが確認されている。

古墳時代前期の古墳は谷畠古墳、中期の古墳としては高山1号墳、シメン坂1号墳、前山1号墳などが発掘調査によって明らかにされている。後期となると古墳数は著しく増加し、ある程度の粗密があるものの、町内各所の尾根上には数基から十数基単位で分布している。5世紀後半から盛期を迎える古墳群は野山古墳群、沢古墳群、栗谷古墳群、大王山古墳群、丹切古墳群などが知られている。6世紀後半以降、今までの木棺直葬墳にかわって横穴式石室墳が築造されるようになり、丹切古墳群、能峰古墳群、石田古墳群、大貝古墳群、西谷古墳群をはじめ、多くの古墳が発掘調査によって状況が明らかになっている。

横穴式石室にかわる新しい葬法として火葬墓が登場てくるが、最も代表的なものが、壬申の乱で活躍した將軍のひとりで渡来系氏族でもある文祢麻呂の墳墓である。現在、墳墓は史跡、墓誌などの出土品は国宝となっている。

古代末には、宇陀においても莊園の開発が急速に進み、坊ノ浦遺跡や高井遺跡では、掘立柱建物跡や素掘溝などを確認している。この頃から台頭してくる地武士団は、興福寺、春日社などの支配のもと各自が發展を続けた。この武士団は「宇陀三人衆」の秋山氏・澤氏・芳野氏に代表され、彼らは秋山城、澤城、芳野城をそれぞれの居城としていた。また、小規模な城館跡も各所に点在しており、城館の廃絶後、中世墓地と化したところもある。いわゆる中・近世墓地は、まとまったところでは、大王山遺跡、能峰遺跡群、八咫鳥遺跡群、野山遺跡群などが発掘調査により明らかにされている。

紙幅の都合上、多くを述べることができないが、「位置と環境」は、以前から他の報告書等に記載されており、次の文献が詳しい。

- |                                  |          |      |
|----------------------------------|----------|------|
| 『宇陀・丹切古墳群』                       | 奈良県教育委員会 | 1975 |
| 『大王山遺跡』                          | 株原町教育委員会 | 1977 |
| 『能峰遺跡群』                          | 奈良県教育委員会 | 1986 |
| 『下井足遺跡群』                         | 奈良県教育委員会 | 1987 |
| 『野山遺跡群』                          | 奈良県教育委員会 | 1988 |
| 『高田垣内古墳群』                        | 奈良県教育委員会 | 1991 |
| 『大和宇陀地域における古墳の研究』 宇陀古墳文化研究会 1993 |          |      |
| 『石榴垣内遺跡』                         | 奈良県教育委員会 | 1997 |

### III 安田西遺跡第2次発掘調査概要

#### 1 調査の契機と経過

当遺跡を「遺跡分布地図」には、樅原町遺跡地図番号2-248、奈良県遺跡地図番号15-B-332、中世の遺物散布地として登載しているところである。2000年（平成12）には、隣接する遺物散布地の試掘調査の成果に基づいて、当遺跡を含む4箇所の遺物散布地（樅原町遺跡地図番号2-248・249・250・251、奈良県遺跡地図番号15-B-187・332・333・334）を統合して、「安田西遺跡」との見解が奈良県立橿原考古学研究所によって示されている。

この「安田西遺跡」の東端の一帯において、個人住宅の新築工事が計画され、2003年（平成15）5月には埋蔵文化財発掘届が提出された。その後、関係機関等が遺跡の取扱い・発掘調査の実施方法等を協議した結果、樅原町教育委員会において調査を担当することとなった。届出地は、遺構・遺物の状況が明らかでないため、確認調査を実施することとし、現地調査は、2003年（平成15）6月26日に実施した。なお、2000年の調査を第1次調査、今回を第2次調査として扱うこととした。

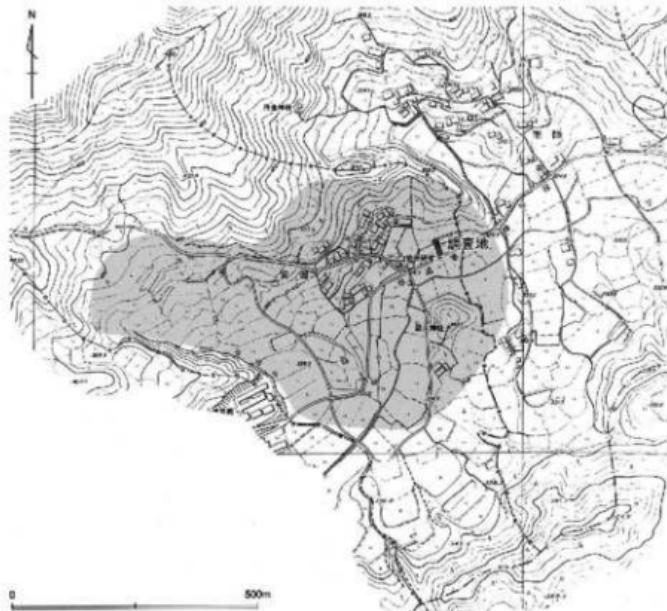


図3 安田西遺跡位置図

## 2 位置と環境

安田西遺跡は、近鉄株原駅を中心とする市街地の西約2.5kmの笠間川流域に位置する。西から東へと流れる笠間川の南北両側には、東西に連なる丘陵があり、この川によって谷地形が形成されている。安田西遺跡は、谷北側の標高約320m～約400mの丘陵裾の南斜面から笠間川にかけて広がっており、第2次調査地は笠間川左岸の標高約323mの小規模な段丘上にある（図3）。

笠間川流域には、多くの遺跡が点在しており、当遺跡の南西方約1kmには澤ノ坊古墳群、石榴垣内遺跡などで構成される笠間遺跡群、東方約0.3mには弥生時代から古墳時代を中心とする五津遺跡群がある。また、安田地区内においても西方約0.5mには、終末期古墳の嶽山古墳がある。

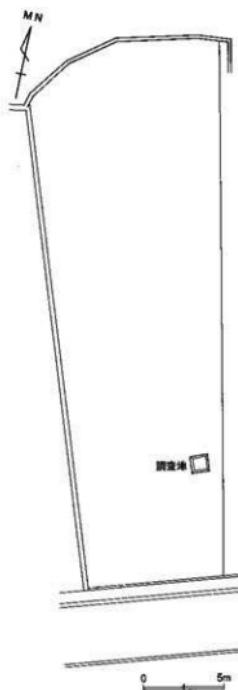


図4 安田西遺跡調査位置図

### 3 遺跡の調査

#### (1) 調査区と基本層序(図4・5、図版1)

工事予定地(敷地面積:322.93m<sup>2</sup>、建築面積:66.82m<sup>2</sup>)内の南半部分の1箇所にトレンチを設定した。第1層がぶい黄褐色の整地土、第2層が明褐色土となっている。工事との関係上、これ以上の掘り下げは行わないこととし、調査範囲を小規模にとどめている。

#### (2) 検出遺構

調査範囲が狭隘なため、明確な遺構は認められない。

#### (3) 出土遺物

明確な遺物は認められない。

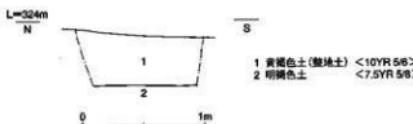


図5 安田西遺跡土層断面図

### 4 まとめ

今回の発掘調査は、その面積が狭隘なため、遺跡の広がり等の詳細は明らかにできなかったが、今後も発掘調査を継続して、「安田西遺跡」の範囲等の正否を検討していくなければならない。

### 5 抄録

遺跡名	安田西遺跡
調査地	<株原町遺跡地図番号2-248~251、奈良県遺跡地図番号15-B-187・332~334>
遺跡立地	奈良県宇陀郡株原町大字安田80-2番地
種別	標高約320m~約400mの丘陵裾
調査主体	株原町教育委員会
調査原因	個人住宅建設工事(事業者:桐野登志明他2名)
現地調査期間	2003年(平成15)6月26日
調査面積	1 m <sup>2</sup>
検出遺構	なし
検出遺物	なし
資料等の保管	株原町教育委員会(文化財整理室)
調査後の措置	工事実施

#### 参考文献

佐々木好直 2000「安田西遺跡試掘調査報告」「奈良県遺跡調査報」1999年度(第2分冊)奈良県立株原考古学研究所

## IV 福西城跡関連遺跡第1次発掘調査概要

### 1 調査の契機と経過

当遺跡は、平坦面や堀切、土壘状隆起が認められ、「遺跡分布地図」に棟原町遺跡地図番号2-377、奈良県遺跡地図番号15-B-500として登載し、福西城関連遺構の可能性を考えているところである。

この遺跡がある尾根を中心として個人住宅の土取・農地造成工事が計画され、2003年（平成15）3月には埋蔵文化財発掘届が提出された。関係機関等が遺跡の取り扱い・発掘調査の実施方法等を協議した結果、棟原町教育委員会において調査を担当することとなった。踏査によって、平坦面、堀切、土壘を再確認したもの、具体的な遺構・遺物の状況が明らかでないため、確認調査を実施することとした。現地調査を2003年（平成15）8月20日～10月20日にかけて実施した。

尾根稜線の樹木等の伐採後、地形測量を実施し、最小限のトレーニングを設定し、遺構・遺物の確認につとめたところ、後述の遺構・遺物を検出した。なお、本遺跡は、近傍の福西城との関係が考えられるため、遺跡名を現段階では、福西城関連遺跡と仮称しておく。

### 2 位置と環境

当遺跡は、棟原町と大字陀町との境界となっている主丘陵から東へ派生する標高約350mの一尾根上に立地する。西方約350mの丘陵上には中世山城である福西城跡、北方約400mには北畠親房ゆかりの灌頂寺跡がある。この他、周辺の尾根上には、福西城の関連遺構の可能性が考えられる平坦面や堀切などがある。また、東方約200～300mの芳野川左岸には、弥生時代の遺物散布地・集落跡である高塚遺跡が位置する（図6・7）。

### 3 遺跡の調査

#### （1）地形測量（図8、図版2～4）

約900m<sup>2</sup>の地形測量を行ったところ、平坦面、堀切、土壘の状況が明らかとなった。

平坦面は、尾根最高所（平坦面1）とやや下った南西側（平坦面2）が認められる。いずれの平坦面ともやや不整であるが、平坦面1は南北約15m×東西約10m、平坦面2は南北約17m×東西約14mの規模を有する。平坦面1と平坦面2との間には、通路とも考えられる幅約1.5mの道があるが、後世の造作の可能性もある。

平坦面1の北側には、尾根稜線と直行して最大幅約4.5m、延長36m以上の堀切が穿たれている。西端は崩壊しているものの、東端については当初の形状を留めているものと思われる。尾根稜線上には、堀切北側に接して幅約3m、高さ約0.5mの土壘が認められる。また、平坦面2の西側には横堀と土壘が認められる。

平坦面1から東へのびる尾根上や南側にも平坦面があるが、今回の測量範囲には含めていない。

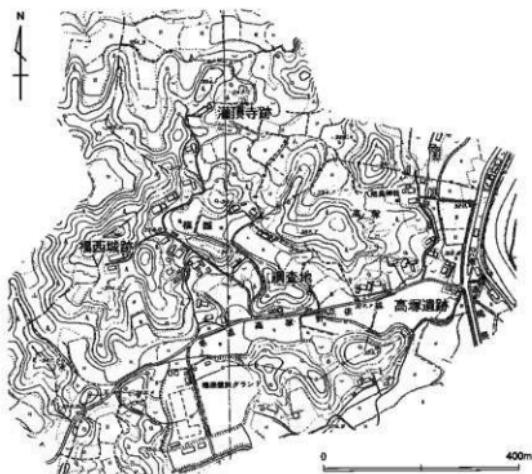


図6 福西城関連遺跡位置図（1）



図7 福西城関連遺跡位置図（2）

## (2) 調査区・基本層序と検出遺構（図8～10、図版5～7）

工事予定地（面積：4132m<sup>2</sup>）のうち、尾根上に3箇所のトレンチを設定し、遺構・遺物の検出につとめた。

土壌及び堀切と直行し、平坦面1のほぼ中央にトレンチ（第1トレンチ、第2トレンチ）、そして北側の一段低い平坦面にもトレンチ（第3トレンチ）を設定した。平坦面2については、今回、トレンチは設定していない。

### 第1・2トレンチ

幅約2m、延長約19mのトレンチである。腐葉土下は、褐色の表土となっており、表土を除去すると、にぶい黄褐色砂質土の地山面（遺構面）となる。平坦面1では、地表から地山面までの深さは約20cm～30cmである。調査面積が狭隘なため、土坑・ピット等の遺構は検出していない。

堀切は薬研状に掘られ、堀底に約30cmの厚さで褐色砂質土が堆積する。

土壌は、地山を若干、整形したのち、その上に褐色砂質土の盛土（厚さ約15cm～20cm）を施す。

### 第3トレンチ

腐葉土下は、明褐色土となっており、地山面は各所に凹凸がある。地形及び地山面の状況から近・現代の畑地跡と考えられる。

### (3) 出土遺物（図11～14、図版8）

調査地各所の表土中よりサスカイト、石皿、土師器、瓦器、瓦質土器、陶器、鐵鑓、鐵滓、砥石、五輪塔（火輪）が出土している。細片が大半を占め、図化し得たのは、僅かである。

#### 土器（図11）

土師器 土釜 （1）の口縁部は、短く外反し、端部は内側へ折り返して肥厚させる。広口型で大和B型に分類できる。第1トレンチ 平坦面1 第1層出土。（4）の土釜は小型品であるが、詳細は明らかにできない。第3トレンチ 第1層出土。

土師器 摺鉢 （2）の内面には、9条以上の摺目を施す。第1トレンチ 平坦面1 第1層出土。

土師器 皿 （5）の口縁部は、外上方へのび、やや肥厚する。底部は、平底につくる。第3トレンチ 第1層出土。

瓦質土器 摺鉢 （3）は、口縁端部を面取り成形で仕上げ、断面形態は、方形を呈する。内面には、7条の摺目を下から上方向へ施す。第1トレンチ 平坦面1 第1層出土。

#### 鉄製品（図12）

鐵鑓の頭部から茎部（1）、茎部（2）の破片である。（1）は現存長7.9cm、（2）は現存長3.2cmである。

#### 石製品（図13・14）

砥石（図13） （1）は折損面以外の4面に研磨が認められる。現存長6.9cm、幅2.7cm～3.6cm、厚さ0.6cm～1.0cmをはかり、使用状況により、中ほどが若干、薄くなっている。（2）は1面に研磨が認められ、裏面は剥離する。現存長6.3cm、幅3.0cm～3.1cm、現状での厚さ0.2cm～0.4cmをはかる。いずれも石材種は未同定である。

五輪塔（図14-1） 組み合わせ五輪等の火輪（図14-1）で、花崗岩製である。破片のため、その全容は復元しえない。

石皿（図14） 河原石を利用したもので、石皿に分類した。表面には、縁辺付近にまで及ぶ平滑な磨

耗痕、縁辺部の一部には敲打痕が観察できる。現存長19cm、現存幅12.5cm、厚さ6.3cm以上をはかる。

#### 4 ま と め

地形観察から平坦面2ヶ所、堀切1ヶ所、横堀1ヶ所、土壙2ヶ所などを確認した。測量調査後、3箇所にトレーンチを設定し、遺構・遺物の有無を確認し、土壙の構築状況や堀切の状況が明らかとなった。平坦面の調査面積が狭隘なため、現時点では遺構を検出していないが、土師器、瓦器、瓦質土器、陶器、鉄鏃、鉄滓、砥石、五輪塔などが出土した。瓦器碗は、細片であるが、14世紀代のものであることから当期以降の山城であることが明らかとなった。

調査面積を限っていたため、遺構の広がりは明らかでないが、サヌカイト剥片が出土していることから縄文・弥生時代の遺構の存在も推定できるところである。

なお、事業実施に際しては、全面的な発掘調査等が必要と思われる。

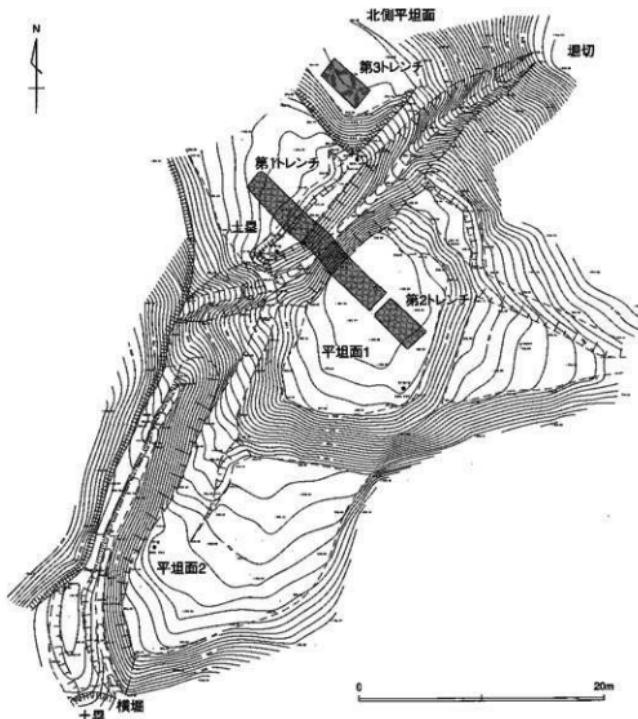
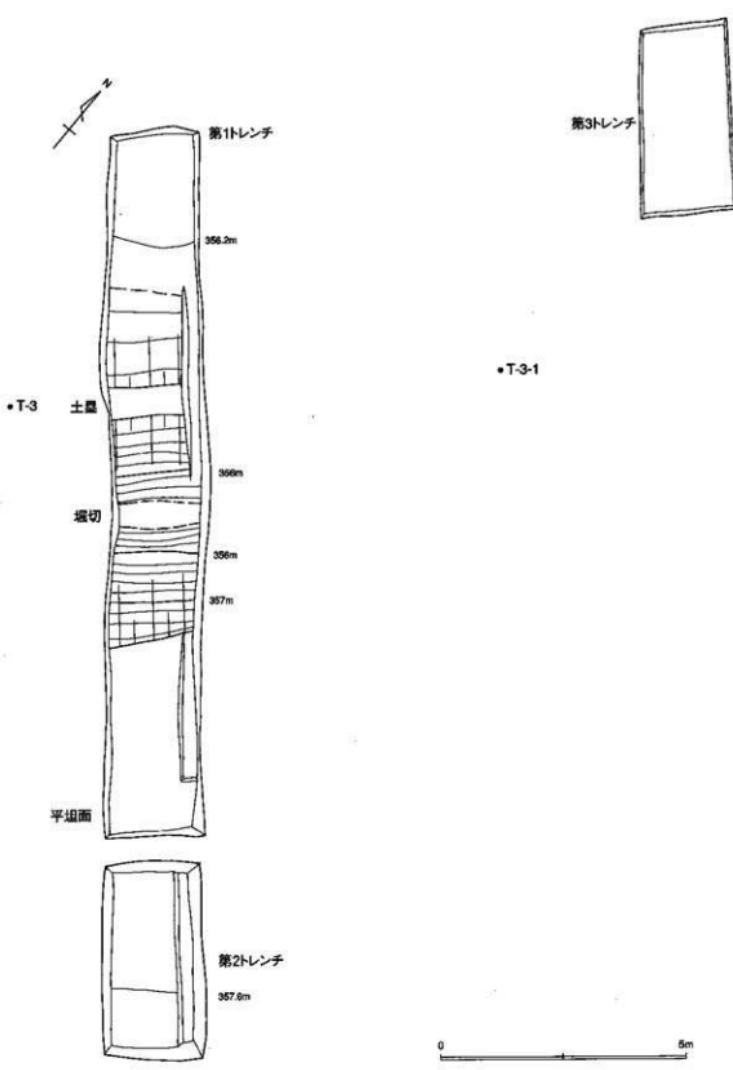


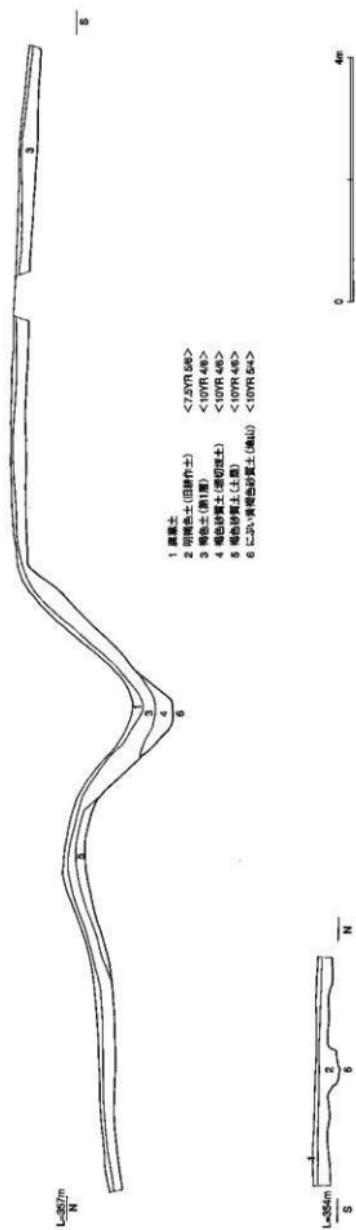
図8 福西城関連遺跡調査位置図



•T-3-2

図9 福西城関連遺跡遺構測量図

图10 福西城關遠壠跡土層斷面圖



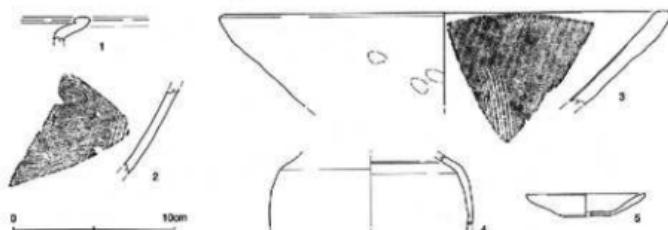


図11 福西城関連遺跡出土土器実測図

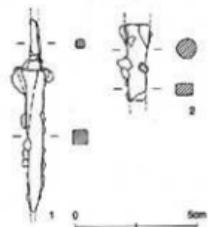


図12 福西城関連遺跡出土鉄製品実測図

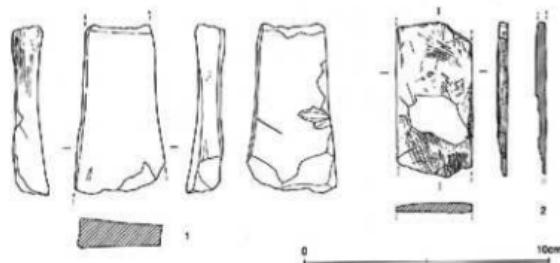


図13 福西城関連遺跡出土石製品実測図（1）

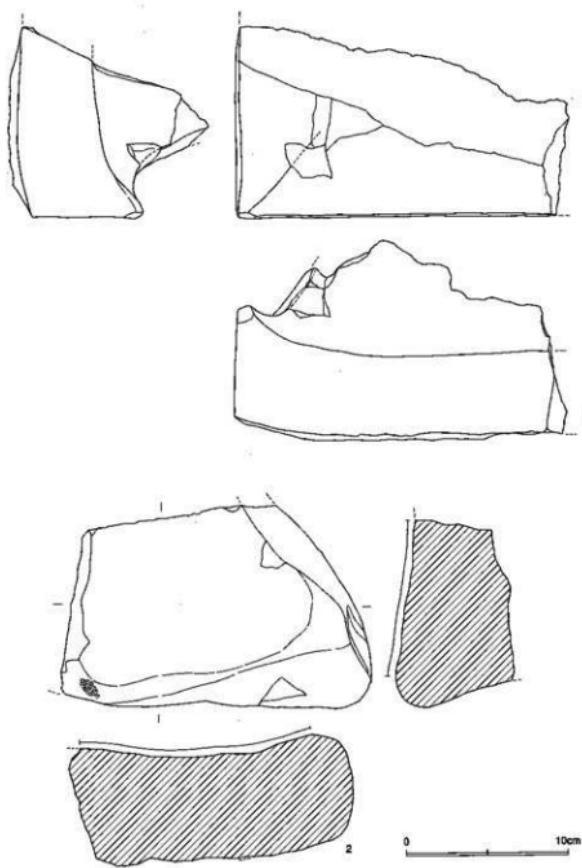


図14 福西城関連遺跡出土石製品実測図（2）

## 5 抄 錄

遺 跡 名	福地城関連遺跡（仮称）
	<株原町遺跡地図番号2-377、奈良県遺跡地図番号15-B-500>
調 査 地	奈良県宇陀郡株原町大字福西187番地
遺 跡 立 地	標高約350m～358mの尾根
種 別	中世の城跡
調 査 主 体	株原町教育委員会
調 査 原 因	個人の農地造成等工事（事業者：久我清司）
現地調査期間	2003年（平成15）8月20日～2003年（平成15）10月20日
調 査 面 積	44m <sup>2</sup>
検 出 遺 構	平坦面、土壘、堀切
検 出 遺 物	サヌカイト、石皿、土師器、瓦器、瓦質土器、陶器、鐵鎌、鐵滓、砥石、五輪塔（火輪）等
<整理箱 1箱>	
資料等の保管	株原町教育委員会（文化財整理室）
調査後の措置	協議中（事業未着手）

### 参考文献

- 清水昭博・小池香津江 1994「福西城跡」『奈良県遺跡調査概報』1993年度（第2分冊） 奈良県立橿原考古学研究所  
寺沢薰・林部均 1990「福西遺跡」『奈良県遺跡調査概報』1987年度（第1分冊） 奈良県立橿原考古学研究所  
楠元哲夫 1990「讃頂寺跡」『奈良県遺跡調査概報』1989年度（第2分冊） 奈良県立橿原考古学研究所  
菅原正明 1983「畿内における土釜の製作と流通」『文化財論叢』 奈良国立文化財研究所

## V 下城・馬場遺跡第9次発掘調査概要

### 1 調査の契機と経過

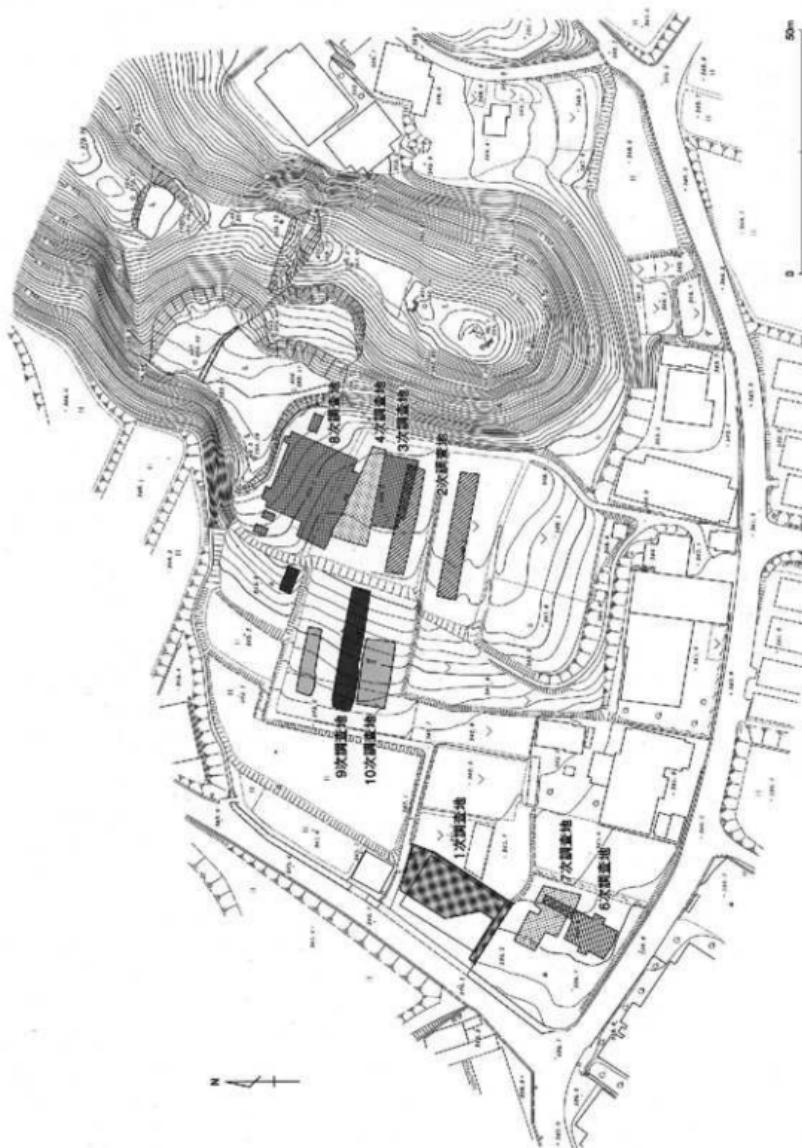
下城・馬場遺跡は奈良県宇陀郡株原町大字沢に位置し、沢城跡から南方へ派生する尾根筋とその間を流れる小支流によって形成された小規模な谷地形の先端部の一角を占めている。古くから澤城の下城といわれ、現在も小字名に「下城」や「馬場」などといった呼称が残っている。

1984年度には「沢集落センター」建設に伴う発掘調査（1次調査）を行い、縄文時代～弥生時代、中世（12世紀～13世紀）の遺構・遺物を検出している。その後、遺跡高所の平坦面において個人による土地改良工事が計画されたため、1993年度に2次調査、1994年度に3次調査、1997年度に4次調査を実施し、15世紀～16世紀の礎石建物等の遺構をはじめ、多くに遺物を検出し、中世の館跡の一端を明らかにできた。



図15 下城・馬場遺跡位置図

図16 下城・馬場遺跡調査位置図



これらの発掘調査によって、下城・馬場遺跡は、宇陀地域における有力中世武士団のひとりである「澤氏」の城館跡（居館跡）であることが明らかとなったことから、さらにその状況等を解明する範囲確認調査を計画し、1998年度に地形測量等（5次調査）、1999年度には、遺跡南西隅部分の遺構・遺物の状況を明らかにする6次調査を実施し、2000年度には、6次調査地の北隣において7次調査を継続し、あわせて東尾根の地形測量も行った。2001年度には、2～4次調査地北側の遺構の有無などを明らかにすることを目的とした確認調査（8次調査）を実施した。発掘調査（現地調査）は、2003年（平成15年）5月6日～9月30日、12月15日～12月22日にかけて断続的に行った（図16）。

なお、本書には、2004年度に実施した10次調査の成果の一部も収めている。

## 2 位置と環境

下城・馬場遺跡は、尾根稜線から西斜面、標高約339m～370mの一角を占めており、芳野川が流れる西方への眺望が比較的良好で、遠く、宇陀地域の代表的な中世山城である秋山城跡を望むことができる。

また、北方には沢城跡や伊那佐山を仰ぎ見ることができる。下城・馬場遺跡の中心は尾根の西斜面に広がり、3段～4段にわたる平坦面が形成されている。遺跡の現状は大半が畠地や水田、山林、周縁部は宅地となっている。

この遺跡の周辺は縄文時代～中世の沢遺跡、弥生時代～中世の延命寺遺跡、古墳時代前期の戸石・辰巳前遺跡や古墳時代前期～後期の野山古墳群などの遺跡が集中している地域もある（図15）。

## 3 遺跡の調査

今回の発掘調査では、多くの遺物を含む整地土と堀・土塁の一部を検出している。

上段の居館焼失に伴う片付けによって、土砂、遺物などを西斜面へ投棄している状況が窺えた。これが結果的に整地土となっており、地形の傾斜によった斜めの堆積状況を示している。

その後、幅5～5.5m、深さ1.5m以上の堀を穿っている。この堀は、現在の土地境界に比較的一致し、南北方向に埋没しているものと推定される（図17、図版9・10）。

トレンチ調査のため、幅が限られ、また、整地土も深くなつたため、下層の遺構面の状況等を明らかにできていない。出土遺物から整地は14世紀前葉以降、堀の開削は、14世紀中葉以降と推定されるが、詳細は今後の調査に期するところが大きい。

## 4 まとめ

整地土中からは、多くの遺物が出土し、下層遺構面の可能性がある土層の相違も認められる。調査範囲が狭隘であったため、不明な点も多く、次年度へ調査を継続することとしたい。

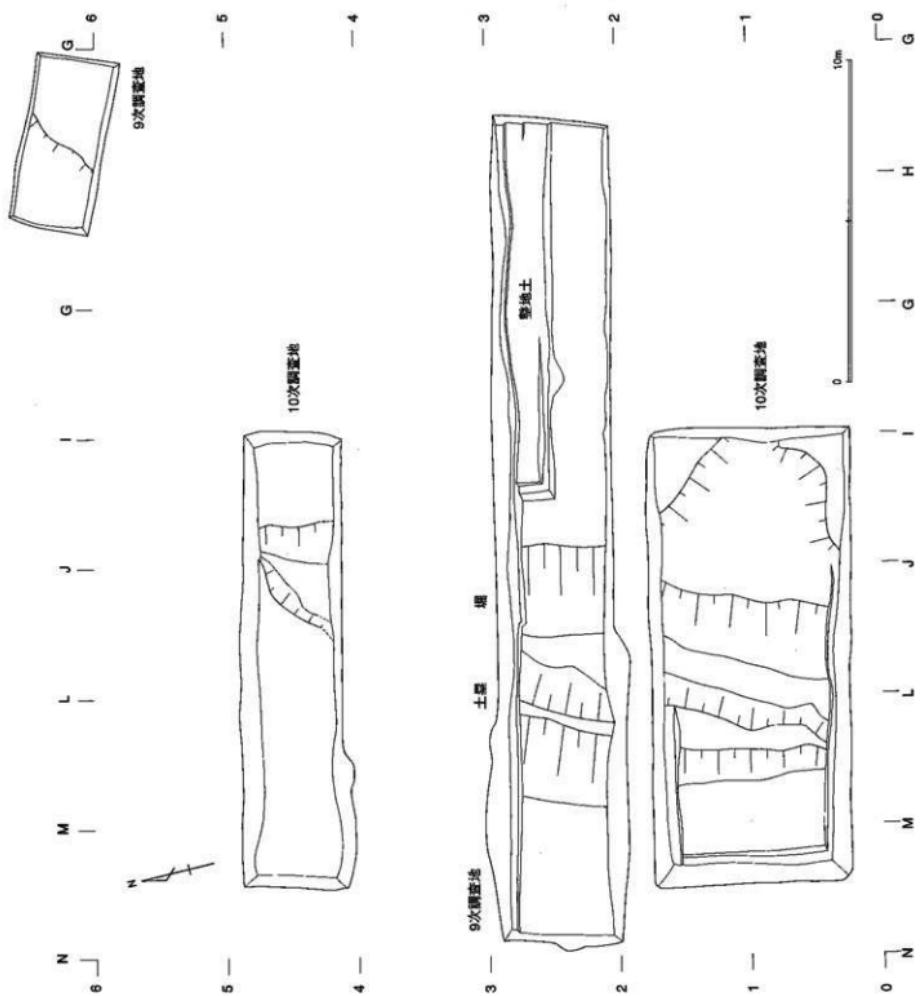


図17 下城・馬場遺跡（9-10次）遺構平面図

## 5 抄 錄

遺 踪 名 下城・馬場遺跡<奈良県遺跡地図番号15-D-90、榛原町遺跡地図番号2-546>  
調 査 地 奈良県宇陀郡榛原町大字沢1295、1296番地（小字名：下城）  
遺 踪 立 地 標高約339m～370mの尾根稜線・斜面、谷部分  
遺 踪 規 模 南北：約200m、東西：約200m  
種 別 繩文時代・弥生時代・古墳時代・中世の遺物散布地、中世の居館跡  
調 査 主 体 榛原町教育委員会  
調 査 担 当 者 榛原町教育委員会 生涯学習課 主任 柳澤一宏  
調 査 原 因 個人の農地造成工事（事業主体：砥出嘉信）  
現地調査期間 2003年（平成15）5月6日～12月22日  
調 査 面 積 110m<sup>2</sup>  
検 出 遺 構 堀、土壙、整地土  
検 出 遺 物 サヌカイト、縄文土器、須恵器、土師器、瓦器、瓦賀土器、陶器、磁器、青磁、白磁、鉄刀、鉄刀子、鉄釘、鉄滓、砥石、錢貨、瓦、壁土、炭化物他  
＜整理箱 36箱＞  
資料等の保管 榛原町教育委員会（伊那佐文化センター内 文化財整理室）  
調査後の措置 埋め戻し（次年度継続調査）

## VI 沢遺跡第10次発掘調査概要

### 1 調査の契機と経過

沢遺跡は奈良県宇陀郡榛原町大字沢に位置し、現状は大半が畠地、一部が宅地や道路となっている。この遺跡は1955年（昭和30年）の沢集落内の町道拡幅工事に伴って多くの遺物が出土したことによってその存在が知られるようになり、その後、1963年（昭和38年）に第1次調査、1987年に第2次調査が行われている。榛原町教育委員会では、1991年以降、断続的に発掘調査を重ねているところである。

遺跡西部の標高約332mの雜種地において、個人の擁壁建設工事が計画され、2003年（平成15年）6月には埋蔵文化財発掘届が提出された。関係機関等が遺跡の取扱い・発掘調査の実施方法等を早急に協議した結果、榛原町教育委員会において調査を担当することとなった。今回の調査地（第10次調査地）は、第1次調査地の周縁にあたり、多くの遺構・遺物を検出した第5次調査地の北隣にあたる（図19）。

現地調査は、2003年（平成15）6月12日から同年10月16日まで断続的に行なった。

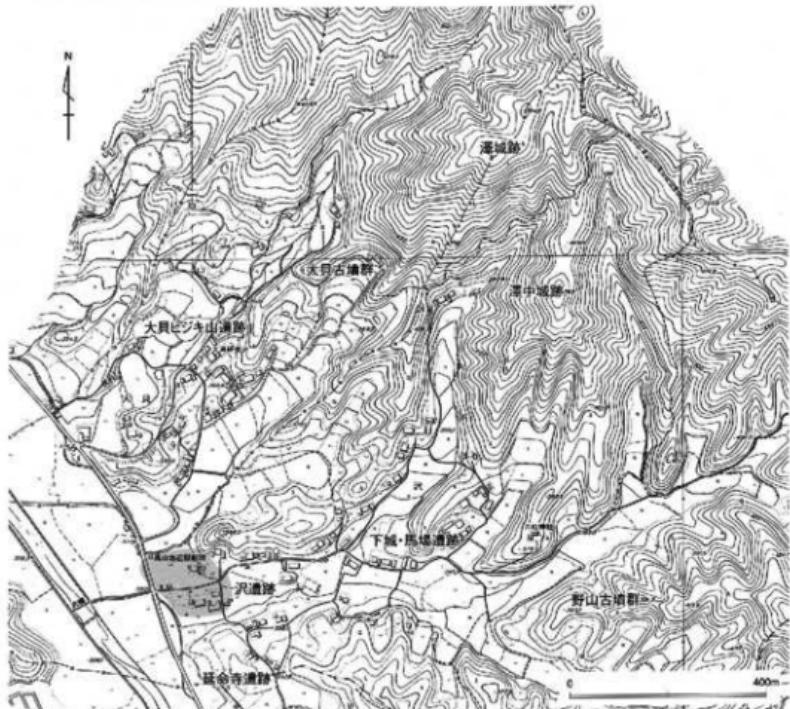


図18 沢遺跡位置図



図19 沢遺跡調査位置図（1）

## 2 位置と環境

沢遺跡は、芳野川東岸の標高331.5～335.5mの台地状の畠地に位置し、現在の芳野川からは約150～300mの距離をはかる。遺跡の北方、南方、西方の三方は芳野川に灌ぐ小支流である谷川や芳野川の氾濫原となっている。地形および遺物の散布状況から遺跡の範囲を推察すれば、氾濫原より約1～2m高くなっている畠地が中心となってくる。遺跡の東方には沢城跡から南西にのびる丘陵先端部がひかえ、この山裾までが遺跡の範囲と考えられる。

沢集落を流れる谷川を挟んで南約200mの尾根上には弥生時代後期の住居跡や古墳時代中期～後期初頭の古墳、中世の建物遺構（寺院跡？）などが確認されている延命寺遺跡、約400m東方に绳文晚期～弥生時代前期・中世の遺物が出土している下城・馬場遺跡、さらに東方には古墳時代前期の戸石・辰巳前遺跡や古墳時代前期～後期の野山古墳群などの遺跡が確認されている（図18）。

## 3 遺跡の調査

### （1）調査区と基本層序（図20～27、図版11～18）

今回の調査地は、擁壁工事によって大きく掘削される箇所を中心に大小9箇所にトレンチを設定した。

トレンチによって基本層序は、やや異なるが、第8トレンチでの基本層序は第5次調査地と同様、第1層が耕作土、第2層が褐色土、第4層がぶい黄褐色砂、第5層が黄褐色粘土・黒褐色粘土、第6層がオリーブ褐色の地山となっている。

### （2）検出遺構（図25・28～30、図版13・14）

擁壁基礎の都合上、最小限の発掘調査に留めているが、第8トレンチからは、土坑、ピット、溝などを検出している。土坑のうち、SK-02からは、多くの绳文土器（後期）が出土し、土器埋設遺構とも考えられるものである。他の遺構が重複しているが、約45cm～60cm、深さ約50cmの円形土坑である。

また、SD-01は、幅約130cm、深さ約45cmの規模を有する弥生時代中期以降の溝である。

### （3）出土遺物（写真1）

遺物包含層および、先掲の遺構からサヌカイト、石器、绳文土器、弥生土器、土師器、瓦器などが整理箱8箱相当分出土している。整理途中のため、これらの詳細は明らかにできないが、绳文時代後期の绳文土器がこの大半をしめている。

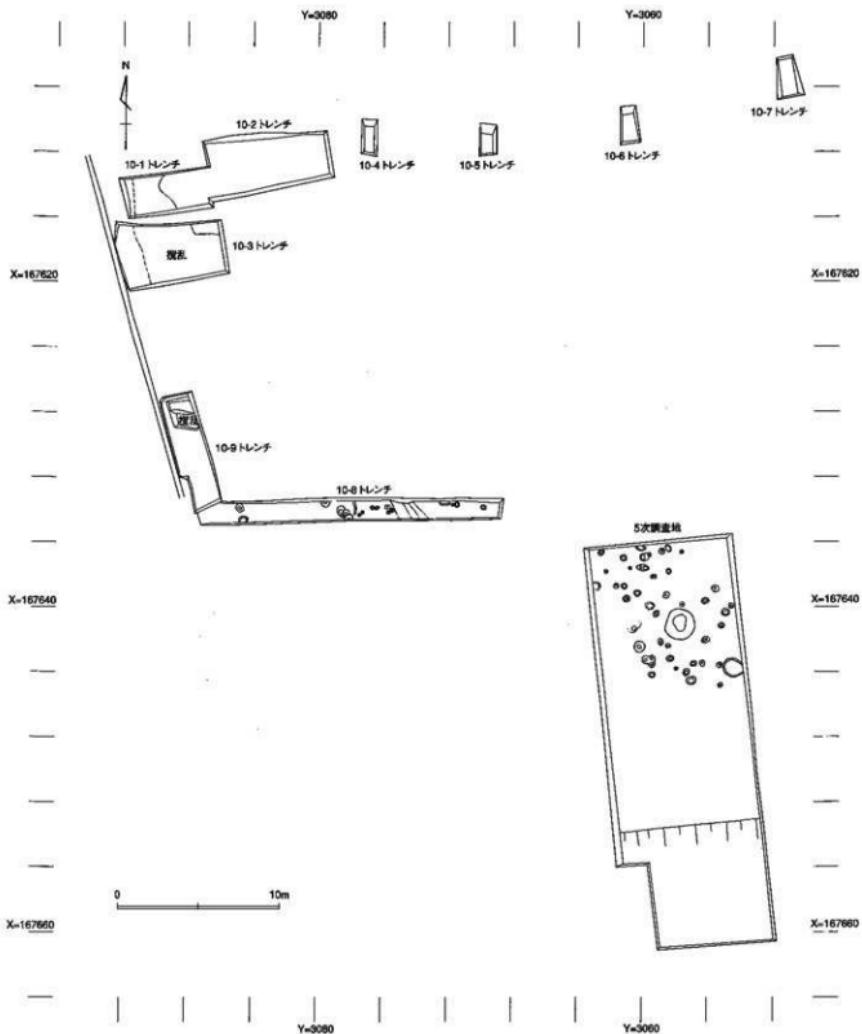


図20 沢遺跡調査位置図（2）

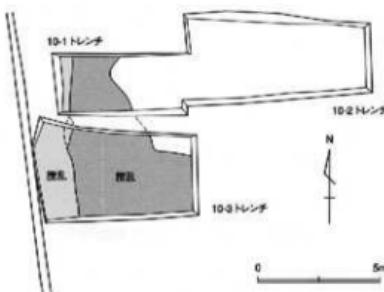


図21 沢遺跡10-1～10-3 トレンチ平面図

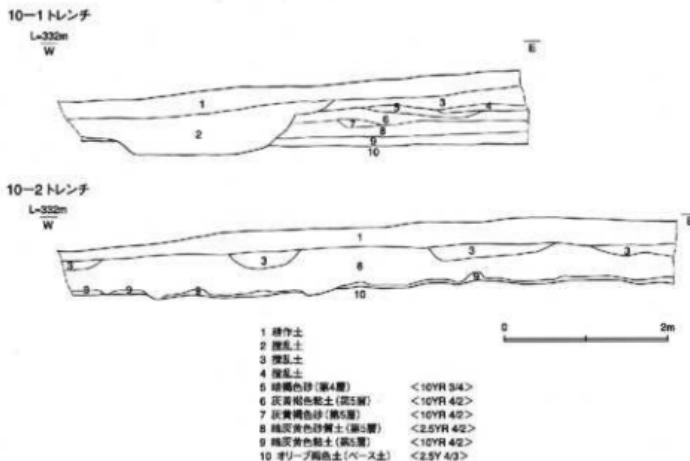


図22 沢遺跡10-1・10-2 トレンチ断面図

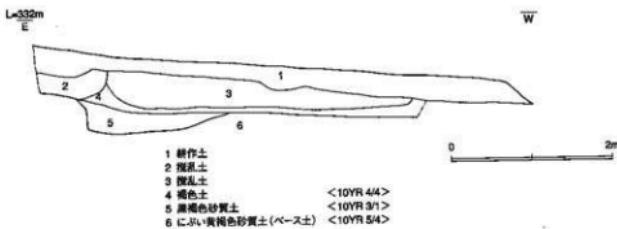


図23 沢遺跡10-3 トレンチ土層断面図

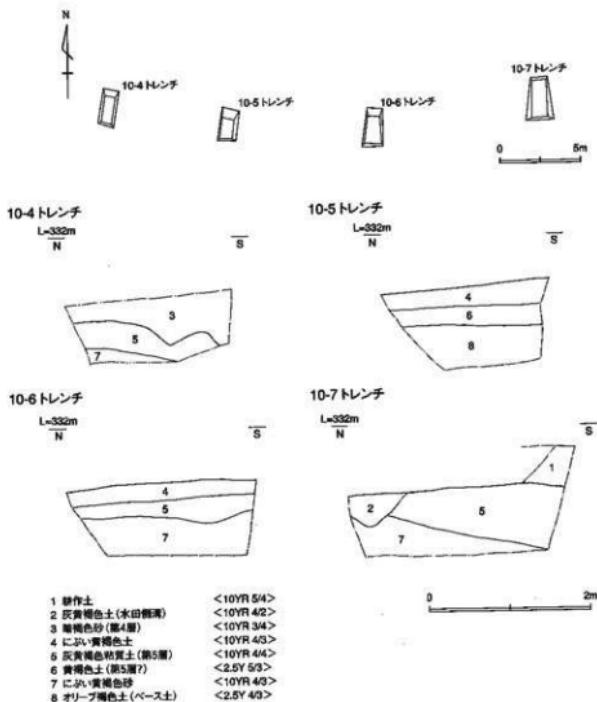


図24 沢遺跡10-4 ~10-7 トレンチ土層断面図

1 に3い青褐色土(耕作土)	<10YR 4/3>	10 灰黄褐色粘土(第5層)	<10YR 4/2>
2 褐色土(耕作土)	<10YR 4/4>	11 黑褐色土(第5層)	<7.5YR 3/2>
3 灰褐色砂质土	<10YR 3/1>	12 褐褐色土(SD-02)	<10YR 3/3>
4 灰褐色粘土(SD-01)	<10YR 4/2>	13 褐褐色土(E-2)	<10YR 3/3>
5 灰色土	<10YR 4/4>	14 オリーブ褐色土(ベース土)	<2.5Y 4/2>
6 灰青褐色砂	<10YR 4/2>	15 明褐色粘土(ベース土)	<7.5YR 6/6>
7 に3い青褐色砂(第4層)	<10YR 4/3>		
8 に3い青褐色粘土(第5層)	<10YR 4/3>		
9 に3い青褐色粘土(第5層)	<10YR 5/4>		

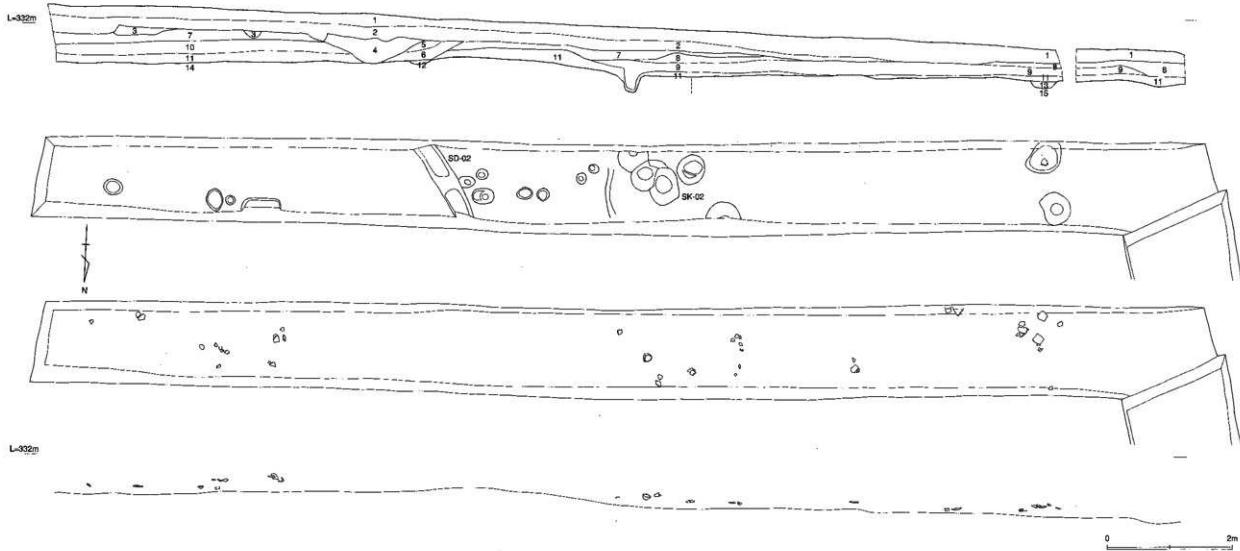


図25 沢遺跡10-8 トレンチ実測図

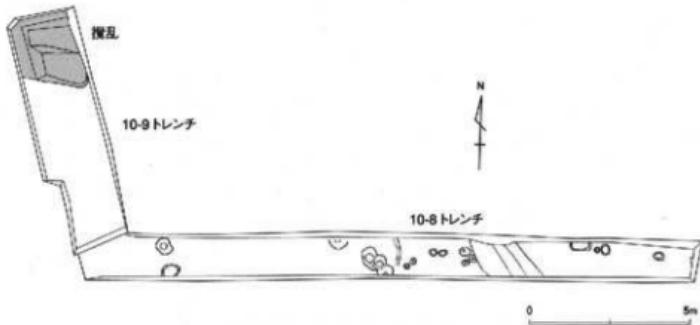


図26 沢遺跡10-8・10-9トレンチ平面図

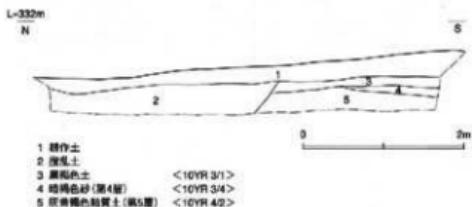


図27 沢遺跡10-9トレンチ土層断面図

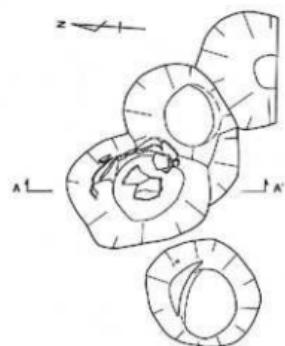


図28 沢遺跡10-8トレンチ SK-02遺物出土状況実測図

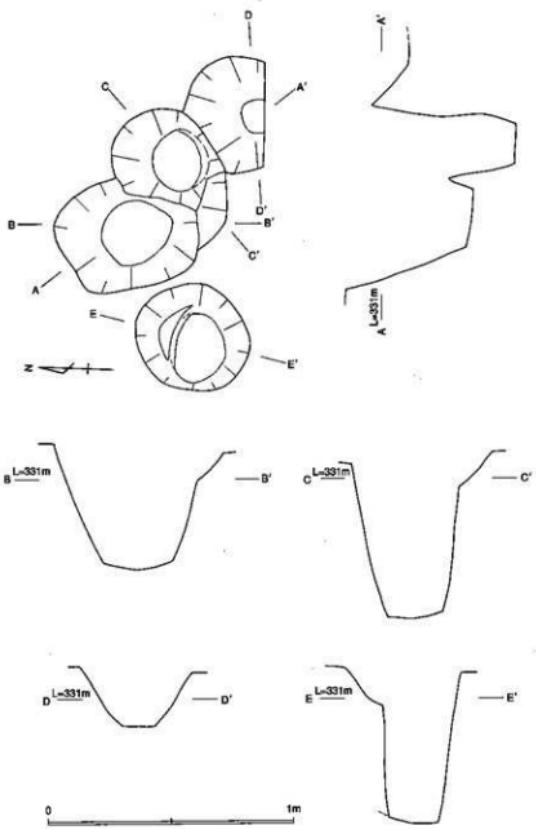


図29 沢遺跡10-8 トレンチ SK-02実測図



写真1 沢遺跡 SK-02出土 繩文土器



図30 沢遺跡10-8 トレンチ SD-01実測図

## 4 ま と め

これまでの発掘調査で、当遺跡からは多くの縄文時代中期末葉～縄文時代晚期、弥生時代前期～後期の遺構・遺物を検出している。また、少量ではあるものの、古墳時代以降の遺構・遺物も検出しているところである。

今回の第10次調査地においても、縄文時代後期前葉を中心とする遺構・遺物を確認しており、この頃が遺跡の盛期のひとつと考えられる。第10次調査は、第1次調査地を囲むように小規模なトレンチを設定したのみであるので、今後の土地利用によっては、第1次調査地の再確認を含む発掘調査が必要な区域である。

出土遺物の多くは、整理途中のため、これらの詳細は明らかにできないが、別途、改めてこれらを報告することとした。

## 5 抄 錄

遺 跡 名	沢遺跡 <奈良県遺跡地図番号15-D-84、株原町遺跡地図番号2-544>
調 査 地	奈良県宇陀郡株原町大字沢974-1、976-1番地
遺 跡 規 模	範囲：南北約130m、東西約150m
種 別	縄文時代～中世の遺物散布地、縄文時代～弥生時代の集落跡
調 査 主 体	株原町教育委員会
調 査 担 当 者	株原町教育委員会 生涯学習課主任 柳澤一宏
調 査 原 因	個人の擁壁建設工事（事業者：坂口安夫）
現地調査期間	2003年（平成15）6月12日～2003年（平成15）10月16日
調 査 面 積	114m <sup>2</sup>
検 出 遺 構	土坑、ピット、溝
検 出 遺 物	サヌカイト、石器、縄文土器、弥生土器、土師器、瓦器他
	<整理箱8箱>
資料等の保管	株原町教育委員会（文化財整理室）
調査後の措置	工事実施

### 参考文献

- 岡崎晋明編 1987『大和考古資料目録』第14集 奈良県立株原考古学研究所附属博物館  
柳澤一宏 1997『株原町内遺跡発掘調査概要報告書』1995年度 株原町教育委員会  
柳澤一宏 1998『株原町内遺跡発掘調査概要報告書』1996年度 株原町教育委員会  
柳澤一宏 1999『株原町内遺跡発掘調査概要報告書』1997年度 株原町教育委員会  
柳澤一宏他 2003『株原町内遺跡発掘調査概要報告書』2001年度 株原町教育委員会

# 図 版



調査地近景（南西から）



調査区（西から）



土壘・平坦面1（北西から）



平坦面1（北から）



堀切（南東から）



堀切（南西から）

図版四 福西城関連遺跡



堀切（南西から）



北側平坦面（南西から）平坦面1（北から）



土壘・平坦面1（北西から）



平坦面1（西から）



土塁（西から）



土塁（南から）



堀切（南西から）



北側平坦面（第3トレンチ）（南西から）



11-3



12-1

12-2



14-1



13-1



13-2



14-2



調査地（西から）



調査地（西から）



整地土遺物出土状況（西から）



堀切（南西から）



10-1・10-2 トレンチ（西から）



10-2 トレンチ土層断面（南西から）



10-3 トレンチ（東から）



10-9 トレンチ（北西から）



10-8 トレンチ遺物出土状況（西から）



10-8 トレンチ遺構（西から）



10-8 トレンチ遺構（西から）



10-8 トレンチSK-02遺物出土状況（西から）



10-8 トレンチ東端土層断面（北西から）



10-8 トレンチ西端土層断面（北から）



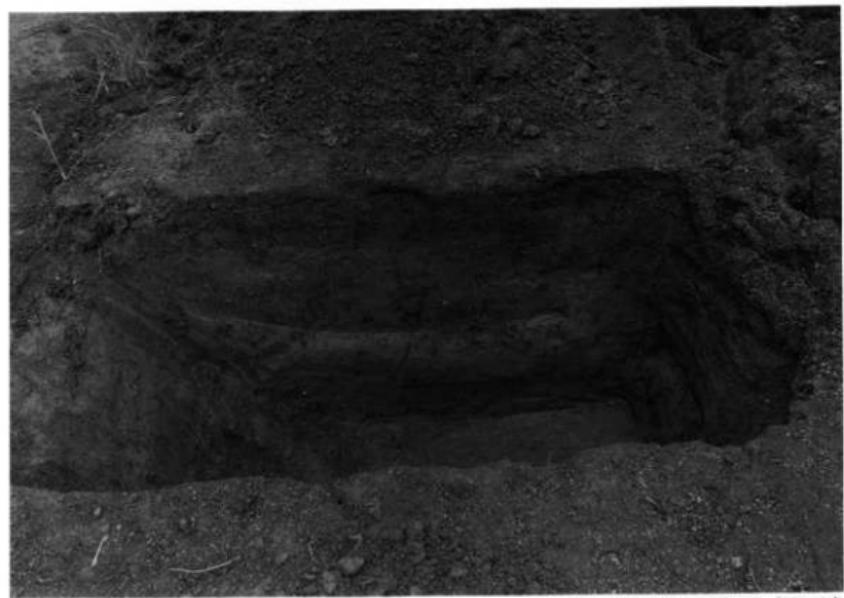
10—4 トレンチ（北から）



10—4 トレンチ土層断面（西から）



10-5 トレンチ（北から）



10-5 トレンチ土層断面（西から）

図版一八 沢遺跡



10-6 トレンチ（北から）



10-6 トレンチ土層断面（西から）

# 報告書抄録

ふりがな	はいばらちょうないいいせきはくつちょうさかいようほくしょ						
書名	株原町内遺跡発掘調査概要報告書 2003年度						
圖書名							
卷次							
シリーズ名	株原町文化財調査概要						
シリーズ番号	28						
編著者名	拂澤一宏						
編集機関	株原町教育委員会						
所在地	〒633-0292 奈良県宇陀郡株原町大字下井尾17番地の3 TEL 0745-82-1301(代)						
発行年月日	西暦 2005年3月31日						
ふりがな	ふりがな	コード	北緯	東経	調査期間	調査面積 (m <sup>2</sup> )	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	上段:世界測地系 下段:日本測地系			
下城・馬場遺跡 (9次調査)	奈良県宇陀郡株原町 大字沢1295、1296番地	29383		34度 29分 35秒 135度 58分 07秒	2003.5.6 2003.9.30 2003.12.15 2003.12.22	110	個人住宅建設工事
沢遺跡 (10次調査)	奈良県宇陀郡株原町 大字沢974-1、976-1番地	29383		34度 29分 32秒 135度 57分 49秒	2003.6.12 2003.10.16	114	個人住宅建設工事
安田西遺跡 (2次調査)	奈良県宇陀郡株原町 大字安田80-2番地	29383		34度 31分 10秒 135度 55分 48秒	2003.6.26	1	個人住宅建設工事
福西城跡開削遺跡 (1次調査)	奈良県宇陀郡株原町 大字福西187番地	29383		34度 30分 04秒 135度 56分 37秒	2003.8.20 2003.10.20	44	個人住宅建設工事
所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
下城・馬場遺跡 (9次調査)	遺物散布地 城跡	縄文～古墳、中世 中世	堀、土塁、 整地土	サヌカト、繩文土器、須恵器、 土師器、瓦器、瓦質土器、 陶器、磁器、青磁、白磁、鉄刀、 鐵刀刃、鉄釘、鉄滓、砥石、 鐵貨、瓦、壁土、炭化物他			
沢遺跡 (10次調査)	遺物散布地 集落跡	縄文～古墳、中世 縄文～弥生	土坑、ピット、溝	サヌカト、石器、繩文 土器、弥生土器、 土師器、瓦器他			
安田西遺跡 (2次調査)	遺物散布地	縄文～近世	なし	なし			
福西城跡開削遺跡 (1次調査)	城跡	中世	平坦面、堀切、 土塁	サヌカト、石皿、土師器、 瓦器、瓦質土器、陶器、 鐵器、鐵滓、砥石、五輪塔 (火輪)	仮称		

榛原町内遺跡発掘調査概要報告書 2003年度

榛原町文化財調査概要 28

2005年3月31日

発行 榛原町教育委員会  
編集 奈良県宇陀郡榛原町大字下井尾17番地の3

印刷 株式会社明新社  
奈良市南京終町3丁目464番地